

令和7年3月19日 発表

中小企業月次景況調査結果

令和7年2月分

～令和7年2月 データから見た業界の動き～

令和7年3月19日 発表

製造業ではすべてのD.I値が上昇
非製造業では価格転嫁が進まず収益状況が大きく低下



山梨県中小企業団体中央会

〒400-0035 山梨県甲府市飯田2-2-1

TEL 055-237-3215

FAX 055-237-3216

<http://www.chuokai-yamanashi.or.jp/>

令和7年3月19日 発表

製造業ではすべてのD.I値が上昇 非製造業では価格転嫁が進まず収益状況が大きく低下

■ 概 況

2月の県内景況のD.I値は、製造業・非製造業をあわせた全体で

売上高 ▲8ポイント（前年同月比 10ポイント↑）

収益状況 ▲16ポイント（前年同月比 ±0ポイント）

景況感 ▲16ポイント（前年同月比 14ポイント↑）

となり、売上高・景況感が前年同月を上回った。

業種別で、製造業では…

売上高 ▲20ポイント（前年同月比 15ポイント↑）

収益状況 ▲10ポイント（前年同月比 30ポイント↑）

景況感 ▲20ポイント（前年同月比 35ポイント↑）となった。

「原料が大きく高騰しているチョコレートや卵を使った商品の値上げを4月に実施する（菓子製造業）」
「原材料費を抑えた価格訴求品のカテゴリーにも取り組んでいきたい（水産物加工業）」など、飲食料品製造業を中心に価格転嫁・製造原価削減の取組に進展が窺え、収益状況D.I値が大幅に上昇した（+30ポイント）。

また景況感D.I値が大きく上昇（+30ポイント）したものの、「峡南方面の骨材需要量はリニア関連工事の進捗状況に大きく左右される（骨材・石工品等製造業）」
「売上・収益の急激な落ち込みによって今後の見通しが立たない（木材・木製品製造業）」を例に業種によって仕事量に差があり、アメリカ経済の日本への影響など先行きを不安視する報告が多く、数値の回復が製造業全体の傾向とは言えない。

一方、非製造業では…

売上高 ±0ポイント（前年同月比 7ポイント↑）

収益状況 ▲20ポイント（前年同月比 20ポイント↓）

景況感 ▲13ポイント（前年同月比 ±0ポイント）となった。

「葉物野菜が品薄のため高値となり、諸費用高騰分の価格転嫁も十分に進んでいない（飲食料品小売業）」
「国が推奨する型枠大工の日当を支払うには請負単価を倍にしなければ賃上げの原資を確保できない（型枠大工工事業）」など、価格転嫁に苦慮する事業者の報告が多く収益状況D.I値が大きく低下した（▲20ポイント）。また、「ドライバー不足が深刻（道路旅客運送業）」
「警備員の高齢化が深刻であり、特に夜間工事は仕事があっても受注ができない状況（警備業）」など業種を問わず人手不足が課題である。

一方で、運輸業では3月に向けて進学・人事異動に伴う人流の増加、引っ越しによる荷動きの増加に期待を寄せており、「荷主との取引条件の向上により長時間労働の削減・労働環境の改善が進みつつあり、国からの周知によって運賃も値上がり傾向にある（道路貨物運送業）」との報告もあった。

「自治体と連携するなどしてイベント開催や観光地のブランド力向上に取組み、外国人宿泊者を獲得していきたい（宿泊業）」
「大月駅利用者や周辺ホテルへ宿泊する外国人観光客などを商店街にどのように誘導するかが課題である（商店街）」など観光や宿泊業を中心にインバウンド需要の取込に力を入れる報告が多い中、一部の事業者からは国内需要の拡大、個人消費を伸ばす必要性を訴える声もあった。

中央会では、厳しい経営環境を乗り越えるため、専門家派遣や講習会等を活用した支援を強化していきます。お気軽にご相談ください。

● 製造業

食料品 (水産物加工業)	前年同月と比べ売上は96.4%となった。通年(2月決算)では102.2%と増収になったが、原材料高騰により減益となった。値上げ計画に加えて、原材料費を抑えた価格訴求品のカテゴリーにも取り組んでいきたい。
食料品 (洋菓子製造業)	売上は前年同月比105.2%となった。原料が大きく高騰しているチョコレートや卵を使った商品の値上げを4月に実施する。
食料品 (酒類製造業)	徐々に価格転嫁できており販売単価は僅かに上昇したが、販売数量が減少したため売上は微減となった。
繊維・同製品 (織物)	織物製造に至るまでの準備工程(撚糸、染色、整理、整経など)に携わる事業者が廃業・倒産によって激減しており、産地のサプライチェーンを維持できなくなることを危惧している。
繊維・同製品 (織物)	原糸・原材料不足は解消されつつあるが、製品への価格転嫁は進んでいない。織物業の中でも分野によって状況は異なり、インテリア、裏地、ネクタイ等の分野の売上は低迷している。今後も国内の販路開拓・拡大に取り組んでいく。
木材・木製品製造	前年同月と比べ売上は▲50%、収益状況は▲30%と急激に悪化し今後の見通しが立たない状況。
窯業・土石 (砂利)	工事量によって地域の骨材需要量に差があるが、全体では前年同月と比べ売上は▲10%、収益状況は▲10%となった。峡南方面の骨材需要量は、リニア関連工事の進捗状況に大きく左右される。
窯業・土石 (山碎石)	前年同月と比べ売上は▲6%、収益状況は▲6%となった。諸材料・輸送代の上昇や賃上げへの対応が必要であるが、価格転嫁が十分にできていないため、継続して単価アップの交渉をしていく。
鉄鋼・金属 (金属製品製造業)	前年同月と比べ売上は3%増加、収益状況は3%好転した。
一般機器 (業務用機械器具製造業)	年明け以降も業界全体で景気低迷が続いており、前年同月と比べ売上は▲27%、収益状況は▲30%となった。アメリカ経済の日本への影響も懸念され先行きを不安視している。
電気機器 (電気機械部品加工業)	医療関係の受注が増加し、前年同月と比べ売上は10%増加、収益状況は5%好転したが、半導体業界は低調が続いている。不安定な受注はこの先も続くと思われる、先行きも不透明。

● 非製造業

卸売 (ジュエリー)	金・地金価格の高止まりに加えて、相場変動が激しく(1日に100~200円/gの上昇)、受注量が減少している。また、物価高によって個人消費の低迷が続いている。さらに、金・地金の売買は現金取引のため、キャッシュアウトが先行し資金繰りが厳しい。これらの要因により、前年同月と比べ売上は▲85%、収益状況は▲80%となった。加えて、宝飾業界では求人難、人手不足が深刻である。
---------------	---

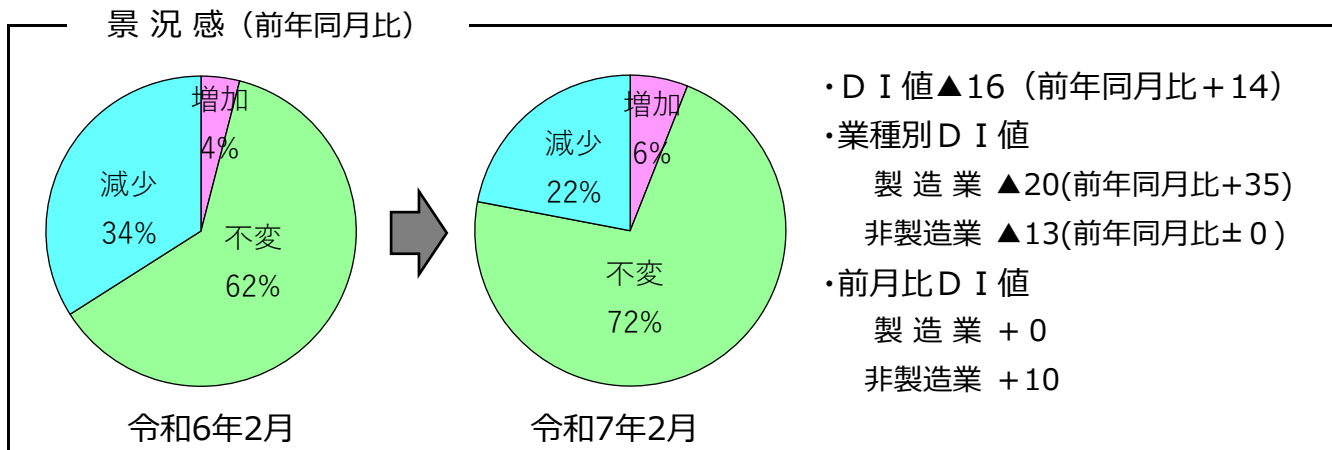
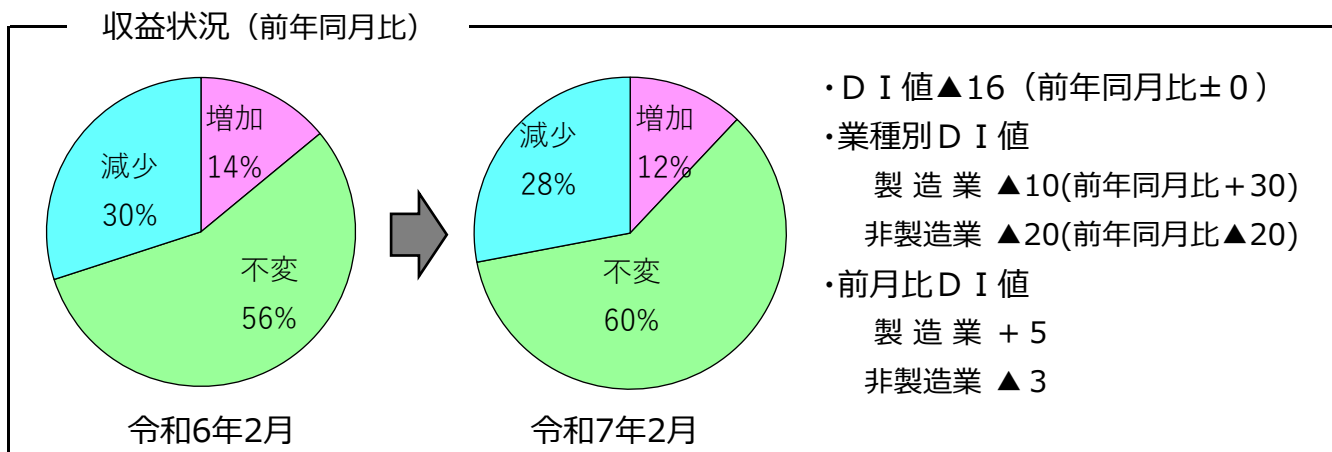
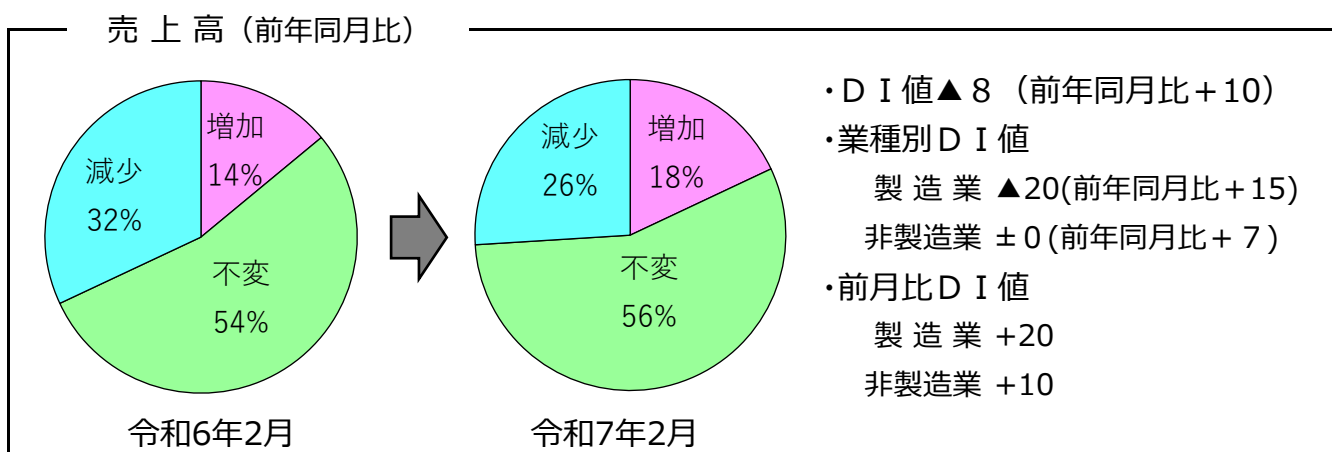
小 売 (青 果)	葉物野菜が品薄のため高値となり、前年同月と比べ販売価格は10%上昇、売上は7%増加したが、価格転嫁が十分でなく、収益状況は▲10%となった。苺は月の後半で値下がりし、3月に向け安値が予想される。
小 売 (水産物)	今年度、組合員の新規加入はなかったが、脱退は2社あった。
小 売 (電気機械器具小売業)	一般家電（テレビ・冷蔵庫・洗濯機・エアコン）の販売が前年を大きく下回り、前年同月と比べ売上は▲25%、収益状況は▲20%となった。今後春から夏にかけても回復は見込めない。 高齢化に伴う廃業により県内の電器専門店数が減少している。
小 売 (事務機小売業)	安さを重要視するか、価格よりも優れたサービスを重要視するか、消費者によってニーズが明確に分かれてきているが、当業界に必要なのは最適な情報や助言、付加価値の提供だと考えている。
商 店 街	大月駅周辺で有料駐車場が乱立しており、組合が管理する駐車場の売上が減少している。 歳末セールの実施など組合では商店街への客足を増やす努力をしているが、組合員個店の経営状況は厳しい。 大月駅利用者や周辺ホテルへ宿泊する外国人観光客などを商店街にどのように誘導するかが大きな課題である。
宿 泊 業	公共工事関係者（建設業者）やビジネス客の増加により、前月に比べて稼動が上がった。閑散期の稼動を上げるには、インバウンド需要を取り込むことが重要であるため、自治体と連携してイベントの実施や観光地としての集客に力を入れていきたい。
宿 泊 業	訪日外国人旅行者が増加しており、国内の団体旅行客も堅調に推移し、前年同月と比べ売上は12%増加した。しかし物価高等の影響から個人客の旅行需要は停滞気味。原材料費の高騰が収益確保の足かせとなっている。
美 容 業	年度末（2,3月）は脱退を希望する組合員が増加し苦慮している。
産業廃棄物処理	前年同月と比べ売上は▲8%、収益状況は▲7%となり、修理・修繕費、人件費の増加が収益を圧迫している。 前年同月と比べ仕事量は9%好転しているものの、従業員不足が課題である。
一般廃棄物処理	行政のごみ処理広域化や、小型家電リサイクル法(※)の施行など、本来市町村単位で行う廃棄物の処理が広域化する動きに便乗して、大手企業が資本傘下に置く新たな廃棄物処理に係る企業を設立する動きが全国的に目立ち、業界の存続を脅かしている。 (※)国の認定を受けた事業者が使用済小型電子機器を広域的に回収することで再資源化を促進する制度
警 備 業	公共工事が堅調であり、前年同月と比べ売上は5%増加した。警備員の高齢化による人手不足が解消されず、仕事はあっても受注ができない状況であり、特に夜間工事の警備の人手不足が深刻である。
自動車整備業	車検台数について、普通車13,864台（昨年同月比+862台） 軽自動車11,684台（昨年同月比+482台） ※集計の都合上、1月末数値
建 設 業 (総 合)	2月の県内公共工事は、前年同月に比べ件数は▲35%、請負金額は▲42%と減少した。2月末累計でも件数は▲3%、請負金額は▲2%と減少した。

<p>建設業 (型枠)</p>	<p>例年1～3月は仕事量が減少するが、今年は多くの仕事量を確保できている組合員が多い。賃上げは行っているが、国が推奨する型枠大工の日当を支払うには請負単価を倍にしなければ原資を確保できない。元請けは価格競争で仕事を取っているが、適正見積もりを厳格化しなければ下請けの経営状況は厳しさを増す。</p>
<p>建設業 (鉄構)</p>	<p>前年同月と比べ売上は5%増加したが、仕事量は▲5%となった。固定取引先を持つ会員と持たない会員で仕事量に差が生じているが全体の仕事量は減少傾向である。 鉄骨・溶接に係る鋼材の価格に変動は見られない。</p>
<p>設備工事 (電気工事)</p>	<p>物価・人件費などあらゆるコストが上昇しており先行きを不安視している。</p>
<p>設備工事 (管設備)</p>	<p>埼玉県八潮市で発生した下水道管破損による道路陥没事故をはじめ、上下水道管の老朽化を原因とする漏水が問題となっている。ライフラインの維持・管理に携わる団体として決して他人事ではなく、少しでも管の更新等に尽力していきたい。</p>
<p>運輸 (バス)</p>	<p>ドライバー不足が問題となっている。</p>
<p>運輸 (トラック)</p>	<p>物価高・燃料高騰の影響により前年同月と比べ収益状況は▲10%と悪化した。 春は引っ越しシーズンに入り荷動きが活発になることが予想される。また、荷主との取引条件の向上により長時間労働の削減、労働環境の改善が進みつつあり、国からの普及周知により運賃も値上がり傾向にあることから、見通しは明るい。</p>

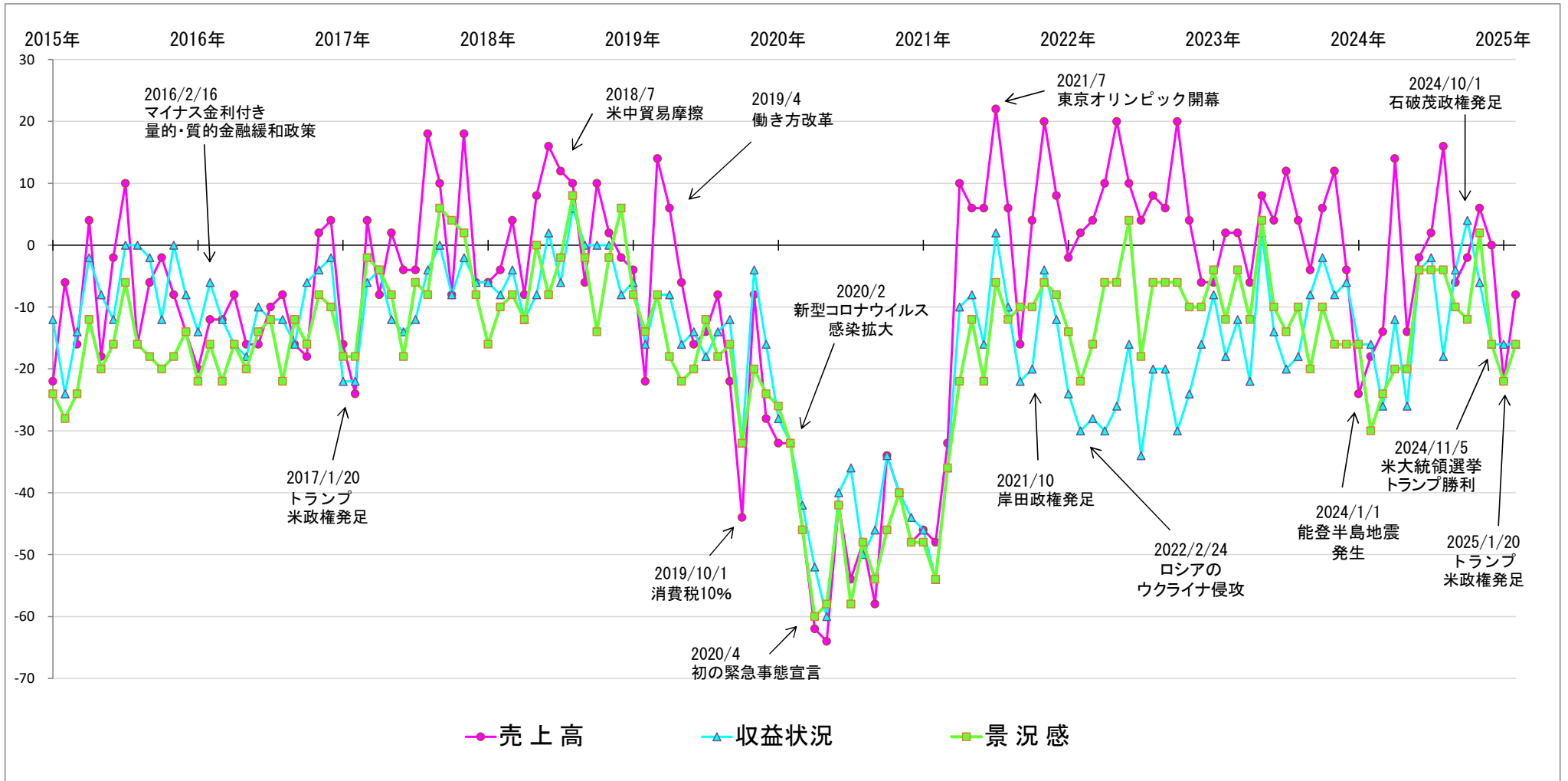
■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値 (好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値)

対前年・前月・当月	製造業			非製造業			合計		
	2024年2月	2025年1月	2025年2月	2024年2月	2025年1月	2025年2月	2024年2月	2025年1月	2025年2月
売上高	▲ 35	▲ 40	▲ 20	▲ 7	▲ 10	0	▲ 18	▲ 22	▲ 8
収益状況	▲ 40	▲ 15	▲ 10	0	▲ 17	▲ 20	▲ 16	▲ 16	▲ 16
景況感	▲ 55	▲ 20	▲ 20	▲ 13	▲ 23	▲ 13	▲ 30	▲ 22	▲ 16

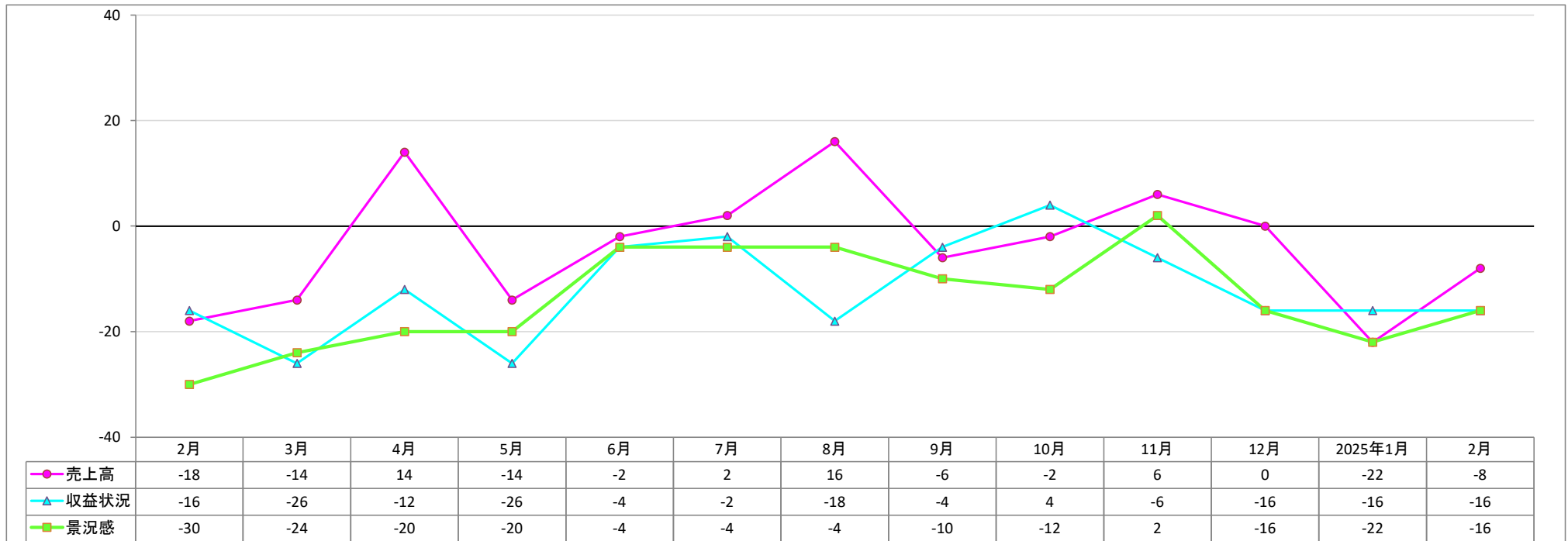
※((良数値÷対象数) ×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D.I値



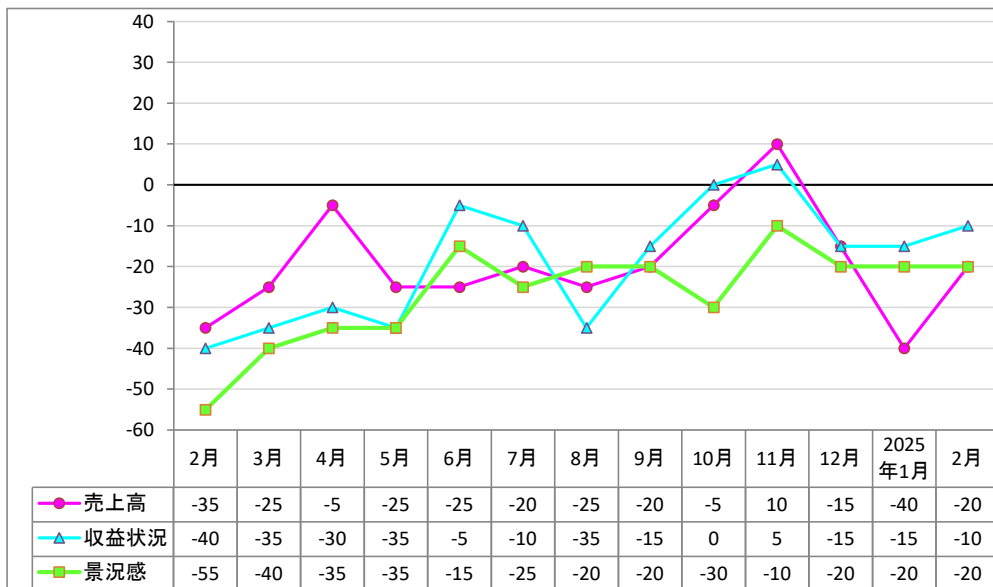
D.I値の推移①(過去10年間) 2015年1月～2025年2月



D.I値の推移②(過去1年間) 2024年2月～2025年2月



【製造業】



【非製造業】

